尾花沢地区 公民館だより

令和４年５月１日 発行 ■ 尾花沢地区公民館 （TEL 23-2016・Fax 24-0383）
〒999-4225 若葉町１丁目４番27号（サルナート内事務室） E-mail：oba_k@city.obanazawa.yamagata.jp

5月の予定

3日(火)～5日(木) 徳良湖まつり
3日(火) 花笠マラソン
14日(土)～15日(日) 野草展（アリーナ入口付近）
17日(火) 歴史講座Ⅱ「鎌倉殿の１３人」 AM
17日(火) 防犯協会尾花沢支部 理事会 PM
26日(木) さわやかあいさつ運動（北村山高校）
30日(月) さわやかあいさつ運動（尾花沢中学校）

おばけん2022 歴史講座

◎歴史講座Ⅰ 『尾花沢市史を読む』2022

1.商品経済の発達と豪商の活動①
2.商品経済の発達と豪商の活動②
3.街道と宿駅
4.幕末期の政治と社会
5.近世尾花沢の文化と宗教
を行います詳しい日程は次号をご覧ください。

野草展

◎期日：5月14日(土)～15日(日)
◎時間：10：00～16：00
◎場所：サルナートアリーナ入口付近

※新型コロナウイルス感染予防の為市外の方はご遠慮願います。
マスクの着用をお願いします。

交通安全県民運動

４月６日(水)野川食肉センター前で交通安全県民運動出発式が行われ、国道347号線沿いで朝の通勤時間帯に安全運転の呼びかけをした後、パトロールに出発しました。

年度始めに当って

尾花沢地区区長会 会長 笹原 光政

私は、毎年四月になると、思いを馳せることがあります。それは、昭和三十四年四月十日に、本市の市制施行がなされ、『尾花沢市』が誕生したことです。

戦後の荒廃の中から、愛する郷土「尾花沢」の限りない復興と発展を目指し、先人達が力を合わせ、ご奮闘なされた歴史があります。

以来今年で六十三周年を迎えました。市庁舎や学校を始めとする公共施設は、建て替えが進み立派になり、又、生活道路や幹線道路も整備され、福祉政策を始め種々の政策も立派に構築されています。

しかし、少子化・高齢化の影響により、人口は往時の半分以下となり、まだまだ減少することが予測されています。

しかし、昨年度からスタートした「第七次総合振興計画」の順調な遂行と、令和四年度から始まる「都市計画マスタープラン」の順調な進捗により、その相乗効果を大いに期待したいと思います。

行政と市民との協働による「まちづくり」を大いに推進し、賑わいのある元気な尾花沢となるよう願いたいものです。

コロナウィルスの感染が、未だ収束の予測がつかない状況下で、事業を展開するにも何かと制約を受けますが、ふるさと振興推進事業の基本の柱「集落が元気で暮らし続けるために」をテーマに、今後とも「住み続けられる地域づくり」を皆様と共に進めて参りたいと思います。

ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和４年度　尾花沢地区区長会紹介

地区名	氏　名	役　職	地区名	氏　名	役　職	地区名	氏　名	役　職
中町	鈴木　東	◎	梺町３	菅野　懋		新町５	大類　茂雄	
上町１	土屋　雄一		横町１	鈴木　征司	会計	荒楯	笹原　光政	◎会長
上町２	☆齊藤　壽一		横町２	田中　幸雄		二藤袋１	大山　榮一	
若葉町	小埜　政美	◎	北町	和田　晥	◎	二藤袋２	細矢　昭雄	◎
上町３	間宮　広志		新町１	大﨑　儀治		朧気	齊藤　強志	
上町４	早坂　覺		新町２	佐々木　俊美		横内	加藤　三雄	
上町５	柴田　文夫	◎	新町３	伊藤　次直		五十沢	石塚　清	◎
梺町１	鈴木　勲	◎副会長	新町東	佐藤　好政	◎	田沢	大類　幸喜	監事
梺町２	笠原　征男	監事	新町４	☆佐藤　実		牛房野	星川　敬雄	◎

※今年度の区長です。よろしくお願い致します。　　☆新区長　◎代表区長（敬称略）

「ふれあい」のまち尾花沢⑨

⑬　文化は、この「まち」の経済の動向に大きく影響されます。高度成長が市と人間の文化をどう変えたか、を考えてみるとわかります。

資本の倫理←→地域の倫理

もうからないものは捨てる。経済第一主義。スクラップアンドビルド。地域の地方化。

それにつけても、「まちづくり」論なしの文化論から多くの得るものはありません。個人的心情や身辺小世界の要求だけからしか文化を語らず、語れないでは完全に状況から隔たっているからです。うるわしい「まち」こそ文化の母体であり、学校であり、巣立っていく目的地であるからです。

⑭　日本の文化構造ないし文化概念。

第１点は、ミヤコとヒナといった文化と政治の集権構造です。

・ミヤコ、それも都心だけが花の都であり、都心以外はすべてヒナです。

・ミヤコとヒナは、質的に断絶します。

したがって、ミヤコの権限と権限の分権化、ヒナ文化の再興なしには、この集権構造を変えることはできません。

第２点は、都市と農村の対照です。工業化の発展は、農村からの収奪を強力に推し進め、都市と農村の対立を激化させました。しかし、工業化の成熟は、農村を豊かにし、都市以上に都市型生活様式を楽しむことを可能にしました。都市と農村の対立は消失し、都市における自然の復活・再生が戦略となります。

第３点は、文化と経済の関係です。伝統ないし自然とむすびついた経済のありかた、産業の発展、地域の設計があらためて問われ、文化と経済は対抗の関係にあるのではなく、文化があって経済が活力をもち、文化のありかたと経済のありかたが同型的であり、文化が経済を先導するという論点が浮かびあがってきました。

（文責　　山形県地域史研究協議会長　　梅　津　保　一）

尾花沢地区の人口と世帯
(R3.4/1現在)　(前月比)
男　性：3,339人　(−16)
女　性：3,550人　(−17)
合　計：6,918人　(− 6)
世帯数：2,577世帯(− 2)

→

尾花沢地区の人口と世帯
(R4.4/1現在)　(前月比)
男　性：3,273人　(−13)
女　性：3,466人　(−18)
合　計：6,739人　(−31)
世帯数：2,537世帯(− 4)